

2026年 3月期

第2四半期(中間期)決算説明会

質疑応答 (要旨)

2025年 11月10日

杏林製薬株式会社



質問内容	回答
1 開発品：KRP-R120 ・今回発表されたデータでは、主要評価項目を達成できなかったが、会社としてどう評価しているか ・aTyr社の申請は難しいという理解で良いか？今後の方向性について教えて欲しい	・主要評価項目を達成できなかったのは残念だが、一部の評価項目で優位差が認められていること等から、今後のaTyr社によるFDA相談の結果も踏まえ、当社はaTyr社と協議しながら進め方を検討していく
2 開発品：KRP-A225 ・KRP-A225は複雑な構造をしているが、安全性の面で懸念はないか ・副作用の懸念がある中、Ph1試験前に契約した背景と今後の開発スケジュールについて教えて欲しい	・従来の生物製剤と大きく変わらないと想定しているが、今後、臨床試験を進める中で、安全性についても注視していきたい ・当社としては当製品について一定の評価をしており、早期に導入することを決定した。スケジュールについてはまだ公表できる段階にはない
3 開発品：KRP-DT123 ・他社の治療用アプリでは、あまり業績への貢献が大きいように思える。御社では今後、どのようなビジネスモデルを構築していくのか展望を聞かせて欲しい	・治療用アプリに関しては、医療保険や認知行動療法の浸透等が現在クリアすべき課題であると認識している。ビジネスモデルは、市場性、臨床的意義等も含め、今後リサーチを進めて公表していきたい

質問内容		回答
	開発品：KRP-DT123 ・サスメド社との契約内容の更新について何かコメントできることはあるか	・DTxについての規制等が大きく変わりつつある中、新たに対応すべきことが出てきたため
4	主力製品：リフヌア ・ガイドラインに掲載された後も、大きな業績の変化はないように見受けられるが、何か変化や進捗があれば教えて欲しい	・ガイドラインに掲載された推奨度は、上から2番目のBであり、高いものと認識している。しかし呼吸器専門医の多くがガイドライン改定ポイントを十分に認知されていないこともあり、浸透を進めていきたい 売上実績については想定通り推移しており、呼吸器疾患が増えると想定される下期に向けて加速させたい
5	導入品：今年度の状況 ・早期に業績貢献が見込める導入案件の状況は？	・現在、業績貢献が見込める導入品獲得に向けてライセンス交渉を継続中である
6	創薬研究領域：肺線維症、神経筋疾患 ・肺線維症は、今後縮小あるいは神経筋疾患へ変更という理解で良いか ・神経筋疾患を選定した理由と今後の活動方針を教えて欲しい	・当社の創薬力の幅を広げ、新たな可能性が見いだせる領域にチャレンジするといった極めて戦略的な判断をした ・将来的な医療ニーズ、事業性の見込み、創薬実現性を総合的に判断した結果であり、これまで培ってきた技術やノウハウを発展的に生かしながら取り組める領域を選択した。オープンイノベーションを活用しながら研究基盤を構築し、共同研究等を含めて、時間軸を意識しながら進めていきたい

質問内容	回答
7 海外新医薬品：前期比 ・海外医薬品が対前期▲87億円となった背景を教えて欲しい	・昨年度、自社創製品である「KRP-M223」を導出した契約一時金 約85億円が計上された反動減である
8 国内新医薬品：新薬比率 ・上期の新薬比率は56.5%だが、通期ではどれくらいになる予想をしているか	・新薬比率は大きく伸びており、目標の50%を大きく超えている 下期もこれを維持していくことが重要と考えている
9 OTC類似薬：売り上げへの影響 ・御社が保険適応除外や制限等があった場合に受ける影響は？ ・スイッチOTCとして発売している製品はあるか？	・議論されている認識はあるが、まだ何も決定されていない中で見積もることはできず、具体的なコメントは避けたい。ただ決定した場合は、何らかの影響はあるものと予想されるため、今後の動向を十分に注視して行きたい ・主力製品では、ムコダインが該当する